

会 議 録

会議の名称	第12回（令和7年度第2回） 飯塚市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和8年3月30日(月) 10:00~12:00
開催場所	飯塚市役所 本庁舎1階 多目的ホール
出席委員	貞清委員長、白瀧副委員長、渡邊委員、吉柳委員、野見山委員、田外委員 久家委員、高山委員、本川委員、竹原委員、渡辺委員、熊谷委員
欠席委員	大谷委員
事務局職員	【市民協働部】小川部長、内田次長 【まちづくり推進課】吉原課長、森山課長補佐、太田主幹補 【市民活動支援課】橋本課長、相川係長、安藤
会議内容	<p>1 市民協働部長挨拶(市民協働部次長挨拶)</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議題</p> <p>議題(1) 地域活動について</p> <p>事務局より、「みんなのまちづくりフェスタ 2026」について説明が行われ、その後、委員から質問・意見を求めた。</p> <p>【主な意見・感想】</p> <ul style="list-style-type: none">・自治会加入率と地域参加について 地域に帰れば自治会という組織がある。自分自身が積極的に自治会活動に参加し、地域のつながりを広げることで、自治会加入率を高めていきたい。・子ども、学校との連携 自治会加入率が低迷する中、まちづくり協議会の行事には自治会未加入者も参加できる。 ウォークラリーなどの行事には学校側も全員参加し、地域全体の行事として機能している。 また、企画段階から生徒に参加してもらい、意見反映や運営にもつなげている。 子どもは地域づくりの主体であり、まち協活動を通じて最終的に自治会加入へつなげていきたい。・中学生の自治会参加の可能性 全国的には、中学生が自治会役員を務める例も生まれている。今後は、大人にはない柔軟な発想を自治会活動に取り入れていくべきである。

会議内容

⇒事務局補足（庄内まちづくり協議会の事例）

庄内まちづくり協議会では、中学生が活動に関わり、その経験を文化祭での発表にも生かしている。「ミニまち協」を立ち上げ、生徒自身がまちづくりの進め方を考え、意見を出し合っている。

その意見をまち協へ届ける仕組みも機能しており、地域全体でまち協の活動を考える体制が形成されている。

・かいたマルシェについて

「させられる」から「自分たちでやる」へと変化している。

会議にも出席し、当日は店長として運営し、片付けまで行うなど、地域の子どもにとって“身近なマルシェ”になっている。

・立岩まちづくり協議会の取り組み

住民運動会や立岩小学校での「こどもマルシェ」など、地域に根ざした活動が行われている。若いメンバーが中心となる「もくようび。」という集まりも活発である。

最近では、踏切の幅が狭いという住民の要望を自治会と連携して働きかけた結果、道幅が拡張されることになった。

こうした取り組みは住みやすいまちづくりにつながるものであり、自治会とまち協がタイアップしてきた成果である。

・情報発信について

最近、まち協新聞を見る機会が増えた。SNSでの発信も広がっているが、紙媒体として手に取り、じっくり読みたいという声もある。

⇒事務局より、紙媒体とSNSの双方を活用し、並列した情報発信に努める。

・教育現場からの視点

教育関係の立場から、まちづくりには様々な人が関わっていると感じた。今後はもっと子どもたちを巻き込んでいきたい。

・うちーの。の活動

内野小学校の児童数が減らないよう活動している。令和8年度の入学生は当初0人の予定だったが、3人に増えた。

3月31日にイベントを開催予定で、4組の参加がある。地道な継続が大切だと感じている。

・こども食堂の取り組み

今年度、秋からこども食堂を5回開催。自治公民館4カ所と社協で実施した。その中で、自治会や自治公民館を知らない子どもがいることに気づいた。今後は自治会長や民生委員と協力し、つながりを深めていきたい。

「貧困＝こども食堂」というイメージではなく、「みんなでごはんを食べる場」として広げていきたい。

合併20周年に関する意見

合併から20年経過しているが、旧飯塚市と旧4町の並び順や「中心

	<p>商店街」の扱いなど、旧市町の区別が残っていることに憤りを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かち歩き大会について 筑穂地区の「旧内野宿」で観光協会が対応していた部分を、今後は「うちの。」に依頼したいとの提案があった。 会議後に改めて相談することとなった。 ・ 手話の会の活動 手話は言語であるとの考えから、手話コーラスを行い、老人施設などへ慰問している。今後は小学校の放課後教室でも活動を行う予定である。 ・ 特殊詐欺への対応 人権ネットの視点から、今年度 30 自治会で「人権を考えるつどい」を実施したところ、25 自治会が「特殊詐欺」をテーマにしていた。 特殊詐欺は大きな社会問題であり、今後も啓発を続けていく必要がある。 <p>議題 (2) 市民活動について 事務局より、「飯塚市協働のまちづくり応援補助金事業」「市民交流プラザの移転と運用開始」について説明が行われた。</p> <p>【主な意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金額について 「協働のまちづくり応援補助金の補助額は？」 ⇒ 事務局より「110 万円、15 団体を想定」と回答。 ・ e スポーツを活用した支援について 重層的支援事業の一環として、ひきこもりの方々がまちへ出てきて気軽に参加できる機会をつくるため「e スポーツ」を開催した。 その取り組みの中で、スポーツ協会の方々と顔見知りになり、今後のまちづくりや共生社会の仕組みづくりにつながる第一歩になったと感じている。今後も継続し、地域のまちづくりに貢献していきたい。 <p>議題 (3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 新しいまちづくりに向けて (第 2 版) について (まちづくり推進課) 完成に向けて協議を進めているとの報告があった。 ▼ 嘉麻の里 夢・未来を考える会より 「第 32 回記念 かち歩き大会」の案内があった。
<p>会議資料</p>	<p>第 12 回 (令和 7 年度第 2 回) 推進委員会 次第 資料 1～資料 3 みんなのまちづくりフェスタ 2026 資料 4 協働のまちづくり応援補助金 令和 6 年度採択 (冊子) 資料 5 協働のまちづくり応援補助金 令和 8 年度手引き 資料 6 市民交流プラザ (リーフレット)</p>

公開・非公開の別	1 公開 (傍聴者 0 人)	2 一部公開	3 非公開
その他			